



道の駅「布施ヶ坂」

田中

道の駅は災害時の防災拠点や地域観光窓口でその存在が重要性を増している。道の駅布施ヶ坂を地方創生の拠点としないか。

池田町長

現在、道の駅は直販事業・観光案内・情報発信を行っている。人の流れを作るという地方創生に関係する。戸田産業建設課長

道の駅を応急対策活動拠点と避難場所への移動の集合拠点や復旧資材の設置場所として位置づけている。

問 道の駅と
地方創生の関連は
答 地方創生に重要な位置づけ

問 道の駅の経営状況や
体制強化は

答 システムを改め
集客アップへ

田中

来年4月から奥四万十博が開催される。道の駅・風車の駅を運営する「(有)ふるさとセンター」の組織も含め今後組織体制強化が重要ではないか。

池田町長

道の駅施設が古くなり明

るさが乏しい。奥四万十博のサテライト会場であり、一部改修する。運営では、直販事業が大きな課題で今年度システムの改修を計画。生産者の拡大を行い「商品豊富な道の駅」ということで集客をあげたい。

問 移住促進への取り組みは

答 希望者に情報提供したい

田中

県は今年度も移住促進に力を入れている。町としても取り組み課題だ。当面の取り組みと長期の戦略は地方総合戦略でもある。県内では枳原町が大きな成果を上げており、須崎市ではNPOと行政が連携して取組んでいる。津野町でも空き家登録制度やホームページを活用して取り組み強化すべきでは。

池田町長

移住希望者になう住環境を提供しなければならぬ。今年度取り組みモデル住宅をもとにニーズを把握し方向性を示す。当面は中間保留住宅を5棟目標に行う。移住促進に4月から相談員を配置して準備を進めている。定住していただく基本的な考え方を示しながら効果ある移住促進を進めていく。